

巻頭言

人類は、核拡散、温暖化、金融混乱、健康不安など地球規模の危機に直面し、「衰退か進化か」の分水嶺に立たされています。環境・健康という根源的問題に世界規模で取り組むためには、歴史の中で生まれた国家・民族間の怨念を昇華し、話し合いのできる強固な平和の基盤を創ることが必要です。

北東アジアには二十世紀の戦争の残滓が色濃く残っており、今も加害国と被害国の間では反感と不信が再生産されています。この地に縁のある人々の見識に、人類の未来が係かっているといっても過言ではありません。

加害の歴史をもつ日本国と、国連常任理事国であり被害の歴史をもつ核大国の中華人民共和国から、被害の歴史をもつ大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国と、国連常任理事国であり核大国の、アメリカ合衆国、ロシア連邦に呼びかけ、和

議、和諧の平和事業を興し、朝鮮半島と日本列島を世界恒久平和の発祥地にするときです。この事業が動き出せば、対立にあえぐ紛争地帯の国民に、勇気と希望をもたらすでしょう。

この名言集は、数千年にわたって引き継がれた人類の至宝である中国古典から、今日的課題の「平和・環境・健康」に関する名言を抜粋し、中日朝英の四ヶ国語で編纂いたしました。本書の発刊を契機に、飛躍的に発達した科学技術と情報通信網により、叡智の生まれる議論の輪が世界に広がり、「対立の文化」から「共生の文化」への止揚が始まることを願っています。

出版にあたり、学苑出版社と各国関係者のご尽力に対し、深甚なる感謝の意を表します。

財団法人 人間自然科学研究所

理事長 **小松昭夫**